

オーディオ実験室収載

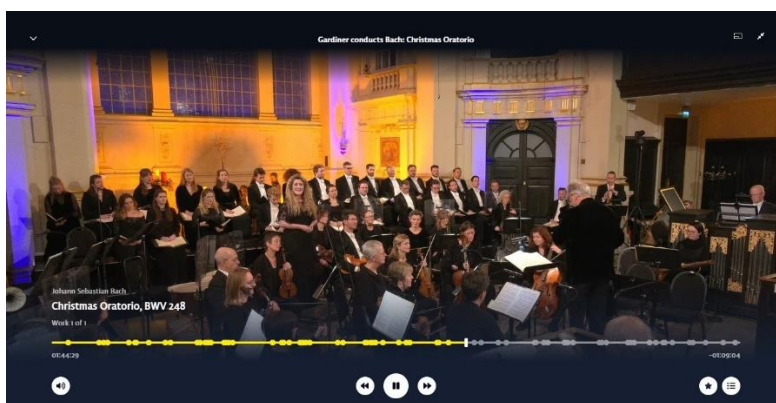
STAGE+を楽しむ(7)(HP 収載)
—ガーディナーのクリスマスオラトリオ—

1. 始めに

前報(6)に引き続き、STAGE+の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、本年12月13日 London の St Martin in the Field での最新収録のエリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストとモンテヴェルディ合唱団のバッハのクリスマスオラトリオを選びました。



Johann Sebastian Bach

Christmas Oratorio, BWV 248

Soloists:

Hilary Cronin (Soprano)

Hugh Cutting (Countertenor)

Jonathan Hanley (Tenor)

Frederick Long (Bass)

Nick Pritchard (Tenor)

Dingle Yandell (Bass)

Ensembles:

English Baroque Soloists

Monteverdi Choir

Conductor:

John Eliot Gardiner

併せて、[DMR-UBZ1](#) による [DVD 鑑賞\(1\)](#) で報告した 1999 年収録の同じくガーディナー指揮イギリスバロックソロイストのクリスマスオラトリオの DVD も再生してみました。



3. 試聴の経過

最新のライブ収録ということで、配信ながら鮮度感は十分すぎるくらいです。スイッチングハブや PC、DAC などへの仮想アースの接続効果もあって、4 人のソリスト（アルトのパートはカウンターテノール）の声の質感、合唱の分離と協和、見慣れない古楽器の質感など、極めてライブらしいリアルさです。さらに空間表現や間接音なども効果的に表現されています。

アンサンブルのメンバーは、大半 DVD 収録時と変わっていますが、一部同じ奏者もいます。ガーディナーの指揮は、DVD 収録時は切れの良いダイナミックな指揮でしたが、流石に年輪を重ねて、抑制的で穏やかな円熟した指揮ぶりになっており、ガーディナーの練られたバッハの解釈と手練れの演奏と言えらと思います。

20 年以上前収録の DVD も以前とは違うクオリティに達していますが、今回の STAGE+ の最新のライブ収録の配信の鮮度感がそれを上回っています。

4. まとめ

エリオット・ガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストとモンテヴェルディ合唱団のバッハのクリスマスオラトリオの最新収録の STAGE+の配信を仮想アースの効果を加えて堪能できました。

以上